

5月9日と10日の両日、宇治田原町教育委員会の馬場指導主事と池尻宇治田原小学校長、森下田原小学校長、夜久田原小学校教務主任の4名で、[文部科学省主催「アクティブ・ラーニング & カリキュラム・マネジメントサミット 2018」](#)に参加してきました。これは、カリキュラム・マネジメント調査研究の進捗状況について研究発表するためです。東京都千代田区一ツ橋にある「[学術総合センター](#)」で行われたこのサミットは、文部科学省初等中等教育局教育課程課の淵上 孝課長の趣旨説明から始まり、千葉大学特任教授である天笠 茂先生の基調講演と続きました。その後、各地のカリキュラム・マネジメント調査研究の発表となったわけです。宇治田原町も2番目の発表で、プレゼンテーションを行いました。研究発表の後、いくつか質問があり応答したのですが、何とか本町の研究のよさについて伝えられたのではないかと思います。

2日目は、各地がそれぞれにブースを作って「サテライトセッション」を行いました。本町のコーナーにも多くの方が質問に来られたのですが、その中に[朝日新聞東京本社編集局社会部教育班の編集委員の方が](#)おられました。この方も「宇治田原スタイル」にとっても興味を持っていただき、数多くの質問をしてくれました。そして、年間35時間を生み出すこの方法のよさに感心してくださり、最後に「是非、宇治田原町に取材に行かせてください。」という申し出をいただきました。反響の大きさに驚くとともに、「宇治田原スタイル」に対する自信をさらに深めたわけです。とても満足な思いで、帰りの新幹線に乗り込むことができました。



サテライトセッションの様子です。多くの関心が寄せられ、「宇治田原スタイル」について全国に発信することができました。

14:28

2018/04/10 [いよいよモジュール授業が始まる！](#)

| by [田原小校長](#)

ずいぶんご無沙汰して申し訳ありません！

平成30年度が明け、**4月10日**から宇治田原町立小学校では**いよいよモジュール授業**が始まりました！

今年の時程表では、少し長かった掃除の時間(20分を15分に)や中間休み(20分の昼休みに合わせて、25分を20分に)を縮め、**一日、10分間の時間を生み出しました。**(田原小学校の場合)そして、その時間を活用して新出漢字の指導を行います。この方法で、これまで各学級に任されてきた新出漢字の指導を全校一斉、同じ方法で行うことができるようになりました。併せて、**1・2年生もモジュール授業を行うことによって、本年度から45分の授業枠を週あたり一つ減らす**ようにしました。2年生はこれまで金曜日が6時間授業

でしたが5時間授業に、1年生は月曜日が5時間授業から4時間授業となりました。(1年生は給食を食べてすぐに下校して腹痛等を起こしてはいけけないので、昼休みを過ごし清掃をして健康状況を見てからの下校となります。)

是非、ご家庭で、学校で行っている漢字指導についての子どもたちの感想を聞いていただければと思います。

新出漢字の指導は、電子黒板内の「デジタル教科書」で指導します。



これは「空書き(そらがき)」といって空中で漢字を書いて、書き順や字形を覚える学習方法です。



1文字1枚の学習プリントを使って習熟を図ります。左側には確認テストも付いています。このプリントはファイリングして保存していきます。



お待たせいたしました。年末に「3年以上の学年で年間 35 時間増(週にすると 45 分間増)」に対応する画期的な方法、子どもたちに無理強いをしない理想的な方法を、宇治田原町では考案しました。その方法は……。というところで止まっていたのですが、

それは、

45 分を5つに分割する方法

45 分間を5つに割って「9分」ずつ、月曜から金曜まで分割してとる方法です。(ただし、「9分」というのは子どもたちにとって中途半端な時間となりますので、実際は 45 分間に5分間を足して 50 分とし、5つに割って 10 分ずつの時間とします。)

10 分間の授業を毎日行うことで生活リズムを整える！

例えば、毎日2校時の始めに 10 分間ずつの学習時間を設定(10 分間モジュール授業)し実施することで、子どもたちの生活リズムが安定します。安定した生活を送ることで、子どもたちの心も落ち着いてきます。

10 分間モジュール枠を使って、国語科の「漢字指導」や「文法についての学習」を！

10 分間のモジュール枠は、学年で一番時間数の多い国語科の学習、特に指導時間が確定していない「新出漢字」の指導を中心に漢字の習得学習や文法指導などを行おうと思っています。

小学校の先生の多くが、「新出漢字」の指導を単元の始めにその単元に出てくる漢字すべてを1時間使って指導しているのではないかと思います。これは、子どもたちにとってはかなりな苦痛を感じる「学び」となります。「食」に例えるなら、食べ物を飲み込んでいないのに、どんどん口に詰め込んでいくようなもの。消化不良を起こしてしまいます。

ところが、中には、国語の時間の始めの時間を漢字指導に割いて、1日1字か2字と時数制限をして指導し、その日のうちにドリルなどで習熟を図っておられる方もおられるのです。この方法ならば、子どもたちも1日に覚えなければならない字数も少なく、あまり無理を感じないと思われれます。

でも、計画的に時間を生み出していくことは、なかなかむずかしいものです。ましてや例えば10分と時間を決めてもオーバーしてしまいがちになります。

そこで、モジュール学習枠で一斉に学習を行えば、学級ごとに設定する必要がなくなり計画的で効果的な運用が可能となるのです。

モジュール学習を1・2年を含めた全学年で実施することで、思わぬ効用が！

学校の生活リズムを全校で揃えることは学校全体を落ち着かせることにとっても効果があります。全校児童が同じように新出漢字の指導を受けているのですから、学校としての一体感は抜群です。

ところが、この方法を使えば1・2年生が今まで以上に週1時間多く勉強することになってしまいます。これは過酷ですねということで、1・2年生については「今の時間割表から1枠減らす」ことを考えています。今、1年生はオール5時間授業、2年生は月曜から木曜までは5時間ですが、金曜日は6時間授業を受けています。(田原小実績)2年生の6時間目の授業枠は、前回の小学校学習指導要領改訂の折に、授業時間増となって致し方なく増やした枠です。この枠は、2年生にとって気力、体力的にかなり厳しい時間帯となっています。

そこで、2年生はオール5時間！1年生は週1回ですが4時間授業

の日が実現！

モジュール学習で1時間増やすことによって、2年生は全て5時間授業、1年生は1日だけですが、給食後の掃除が終わって下校することができるようになります。これで、先生方は、子どもたちに関わる時間を増やすことができるようになるのです。

英語や外国語活動の授業が 45 分の単位で実施できる！

新しく生み出した授業枠を使って国語科の授業をすることで、英語や外国語活動の授業を45分のまとまった単位で行うことができます。このことにより、英語や外国語活動の時間がより計画的に実施できるのではないかと考えます。

宇治田原町の2小学校では、このようなカリキュラム・マネジメントの方法を、

「宇治田原スタイル」(仮称)と名付け、効果検証しようとしています。



14:03

2017/12/28 [なぜ今、カリキュラム・マネジメント研究なのか？ II](#)

| by [田原小校長](#)

新しい小学校学習指導要領実施のためには、3年以上の学年で年間 35 時間の時間の確保が必要です。そのためには、いくつかの方法が考えられます。

1 [長期休業を短縮する方法](#)

例えば、夏季休業を平日7日間ほど短縮することにより 35 時間確保することができます。しかし、教室での冷房は完備しているものの登下校時の暑さ対策が必要ですし、長期

休業期に大きく成長する児童の心身のこと、そして児童の気力面、体力面から考えても課題が多いと思われます。また、春季休業や冬季休業では期間が短く、夏季休業でしか短縮することはできません。

2 4年以上の学年に7校時授業設定する方法

3年に6校時授業を1回増やし、4年以上7校時授業日を週1回作ると、計算上は35時間増やすことができます。しかし、中学生でも通常7校時授業を行っていないのに、児童の気力面、体力面から考えても無理があると考えます。

3 3年以上の学年に水曜日6校時授業を行う方法

水曜日の午後には、子どもたちの放課後の生活が確立しています。日頃充分に取れない友達との交流や遊び、習い事、塾などなど。すでに子どもたちのスケジュールが決まっている中で、水曜日の下校時刻を遅くさせるのは社会的混乱を招く恐れがあります。

4 45分間を3つに区切って15分単位授業を設定する方法

小学校では1単位時間を基本的に45分と定めている学校が多く見られます。その45分を分割して授業する方法をモジュール授業と呼んでいます。この方法では週3回15分単位の授業を行うわけですから、残りの2日と時程に変化が生じます。小さい子どものことですから、この時程の変化によって子どもたちの生活リズムに狂いが生じかねないのが現状です。

どの方法も本町の児童にとって最善とは思えない中、私たちは子どもたちに無理をさせずに授業時数を増やし、さらに教育効果を高める画期的な方法を考案しました。この方法については、来年早々にお伝えします。ご期待ください。

ではよいお年をお迎えください。



14:03

2017/12/27 なぜ今、カリキュラム・マネジメント研究なのか？ I

| by 田原小校長

今日は、夜半からの雪で宇治田原の山々も美しい雪化粧の朝となりました。立場林道の峠道もテカテカと光って凍てついているのがよくわかりました。制限速度を守って安全運転をしながら出勤したところです。



さて、このコーナーは本日からアップを開始いたします。本コーナーは、「カリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」という名前の部屋です。

「カリキュラム・マネジメント」という言葉は聞き慣れない言葉ですが、私たち教育関係者も数年前まではあまり耳にしたことのない言葉でした。諸説様々ですが、私たちが教えるを受けている京都教育大学の樋口准教授の説を簡略に申し上げますと、

教育効果を上げるために、教育の活動内容をどのように工夫して組み立てていくか。

ということに尽きるようです。

この度、小学校教育の規範である「小学校学習指導要領」が改訂されました。平成 32 年度から全面実施となるのですが、今回の改訂の目玉は「道徳の教科化」と「英語科の新設と外国語活動の拡充」の2つです。道徳の教科化についてですが、教科になることによって成績を付けることになるので、このことについては現在本町でも研究中です。しかし道徳そのものの実施については、これまでも年間 35 時間きちんと授業を行っていたので大騒ぎしなければならないかというところでもありません。

問題は、「英語科の新設と外国語活動の拡充」の方です。学習や活動内容もさることながら、3年生以上の学年に週1時間、年間 35 時間の授業時間を増やさなければならなくなったのです。

4～6年生ならば、水曜日の5校時授業を除く他の4日間はすべて6時間授業で、今でも窮屈な時間割なのです。1時間増やすのは、簡単にはいかないのです。

そこで目を付けたのが、

宇治田原町で行っている

「カリキュラム・マネジメント」

研究です。

年間 35 時間増に対応するために、「どのような時間割を組み立てるか。」「子どもたちに無理なく授業を行い、教育効果を上げるにはどうすればよいか」について研究しているのです。くわしくは、次回以降お伝えします。

